

○ 本校の概要

【学校規模】 生徒数240名(1学年3学級、2学年3学級、3学年2学級計7学級) 教員18名
【本校の特色】
ユネスコスクール加盟校、今年度で26年目を迎える生徒会主催によるアルミ缶回収運動、1・2年生による修学旅行見送り隊
生徒が毎日1ページ以上取り組む「自主学習ノート」による家庭学習の推進、4名の道徳授業推進教師による道徳教育の研究推進

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組及び今後の改善策	学校関係者記入欄	
								評価人数	コメント
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。		4:生徒アンケートの設問「学習への取組が積極的になった」での肯定的な回答が85%以上。			A	
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期毎に知らせた。 3:年度間に1回は知らせた。 2:お知らせできなかった。		3:生徒アンケートの設問「学習への取組が積極的になった」での肯定的な回答が60%以上。			B	
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。		2:生徒アンケートの設問「学習への取組が積極的になった」での肯定的な回答が60%未満。			C	
		外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。		1:生徒アンケートの設問「学習への取組が積極的になった」での肯定的な回答が40%未満。			D	
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。						
		家庭学習習慣の確立のため、「毎日の家庭学習～学習の仕方～」を全員に配付し、家庭学習のあり方について説明を行い、「自主学習ノート」を全学級で実施する。	4:80%以上の生徒が提出した。 3:60%以上の生徒が提出した。 2:40%以上の生徒が提出した。 1:40%未満の生徒が提出した。						
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。		4:生徒アンケートの設問「学校生活に満足している」、「学校の決まりを守っている」での肯定的な回答が85%以上。			A	
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。		3:生徒アンケートの設問「学校生活に満足している」、「学校の決まりを守っている」での肯定的な回答が60%以上。			B	
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。		2:生徒アンケートの設問「学校生活に満足している」、「学校の決まりを守っている」での肯定的な回答が60%未満。			C	
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。		1:生徒アンケートの設問「学校生活に満足している」、「学校の決まりを守っている」での肯定的な回答が40%未満。			D	
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 2:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。						
		生徒が相談する教員を希望する「相談週間」を実施する。	4:年3回以上実施した。 3:年2回実施した。 2:年1回実施した。 1:実施しなかった。						
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。		4:生徒アンケートの設問「継続的な運動を通して体力が向上した」での肯定的な回答が85%以上。			A	
		「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。		3:生徒アンケートの設問「継続的な運動を通して体力が向上した」での肯定的な回答が60%以上。			B	
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。		2:生徒アンケートの設問「継続的な運動を通して体力が向上した」での肯定的な回答が60%未満。			C	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。		1:生徒アンケートの設問「継続的な運動を通して体力が向上した」での肯定的な回答が40%未満。			D	
		体育の授業で、毎時間補強運動としてサーキットトレーニング、3～5分走を行う。また、体育的行事(体育祭や大縄跳び大会)や自主朝練、部活動の取組内容を充実させ、体力向上に取り組む。	4:「おおむねできた」と80%以上の生徒が回答した。 3:60%以上の生徒が回答した。 2:50%以上の生徒が回答した。 1:40%以上の生徒が回答した。						
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。						
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。		4:生徒アンケートの設問「授業は教え方がわかりやすく満足している」での肯定的な回答が85%以上。			A	
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。		3:生徒アンケートの設問「授業は教え方がわかりやすく満足している」での肯定的な回答が60%以上。			B	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。		2:生徒アンケートの設問「授業は教え方がわかりやすく満足している」での肯定的な回答が60%未満。			C	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:全教員が月1回以上活用した。 3:80%以上の教員が月1回以上活用した。 2:60%以上の教員が月1回以上活用した。 1:60%未満であった。		1:生徒アンケートの設問「授業は教え方がわかりやすく満足している」での肯定的な回答が40%未満。			D	
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。						
		道徳『発問の工夫』、教科『ICT機器の活用』を研究テーマに、全教員が研究授業を実施する。	4:100%実施した。 3:90%実施した。 2:80%実施した。 1:80%未満であった。						
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくり出します。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。		4:保護者アンケートの該当する項目でAまたはBと肯定的に答えた保護者が85%以上			A	
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。		3:保護者アンケートの該当する項目でAまたはBと肯定的に答えた保護者が60%以上			B	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。		2:保護者アンケートの該当する項目でAまたはBと肯定的に答えた保護者が60%未満			C	
		生徒会主催アルミ缶回収運動を実施する。	4:年12回以上実施した。 3:年10回以上実施した。 2:年8回以上実施した。 1:年8回未満であった。		1:保護者アンケートの該当する項目でAまたはBと肯定的に答えた保護者が40%未満			D	

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
 ○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。